

製品安全データシート

平成 20 年 12 月 16 日 改訂

会社名 富士化成株式会社
住 所 静岡県静岡市駿河区栗原4-43
TEL:054-263-8111 FAX:054-263-7461

製品名	『ヘッドライトクリーナー』	
製品説明	脱脂剤、ヘッドライトクリーナー	
危険有害性の要約	<p>GHS 分類</p> <p>物理化学的危険性 健康に対する有害性</p> <p>健康に対する有害性</p> <p>ラベル要素、絵表示又は シンボル</p> <p>注意喚起語</p> <p>危険有害性情報</p> <p>注意書き 【安全対策】</p> <p>【応急処置】</p>	<p>・皮膚腐食性・刺激性 区分 2</p> <p>・眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分 1</p> <p>・特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分 3(呼吸器)</p> <p>・水生環境急性有害性 区分 3</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>・危険</p> <p>・重篤な皮膚の薬傷</p> <p>・重篤な眼の損傷</p> <p>・呼吸器の障害</p> <p>・水生生物に有害</p> <p>・使用前に取り扱い説明書をよく読み、理解してから使用すること、</p> <p>・この製品を使用する前に飲食又は喫煙をしないこと。</p> <p>・保護手袋、保護眼鏡等を着用すること。</p> <p>・着用中に吸入されうる粒子が発生するかもしれない場合は、粉塵を吸入しないこと。</p> <p>・粉塵、ヒュームを吸入しないこと、</p> <p>・取り扱い後は良く手を洗うこと。</p> <p>・環境への放出を避けること。</p> <p>・吸入した場合音は空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>・無理に吐かせないこと。</p> <p>・眼に入った場合は水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用している方で、容易に外せる場合には外して洗うこと。</p> <p>・皮膚に付着した場合は多量の水と石鹼で洗うこと。</p> <p>・汚染された保護衣等を再使用する場合には、洗濯したものを使用すること。</p> <p>・暴露又はその懸念がある場合は医師の診断、手当てを受けること。</p>

	<p>【保管】</p> <p>【廃棄】</p> <p>国/地域情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漏出物は回収すること。 ・保管の際は容器を密閉して涼しく換気の良いところに施錠して保管すること。 ・廃棄の際は内容物や容器を都道府県知事の認可の受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。 ・情報が得られていない。 		
組成・成分情報 危険有害性物質を対象	<p>【成分名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水 ・石油系炭化水素 ・エチレングリコール ・水酸化ナトリウム ・添加剤 	<p>【CAS. NO】</p> <ul style="list-style-type: none"> — 8008-20-6 107-21-1 1310-73-2 — 	<p>【化審法・安衛法】</p> <ul style="list-style-type: none"> — — (2)-230 (1)-410 — 	<p>【含有量(%)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 50~55 非公開 3~6 1~3 非公開
応急措置	<p>【目に入った場合】</p> <p>【皮膚に付着した場合】</p> <p>【吸入した場合】</p> <p>【飲み込んだ場合】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・直ちに大量の清浄の流水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗い、できるだけ早く医師の診断を受けること。 ・付着物を布にて素早く拭き取る。 ・大量の水、石鹼、又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。外観に変化が見られたり、炎症、痛みがある場合には医師の診断を受けること。 ・汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。 ・直ちに空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 ・誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受ける。嘔吐物は飲み込ませないように注意する。 		
火災時の措置	<p>【使用可能消火剤】</p> <p>【消火方法】</p> <p>【着火した場合】</p> <p>【消火を行う者の保護】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大量注水 [○] ・乾燥砂 [○] ・一般消火剤 [○] ・本品は不燃性であるが、周辺火災の場合は容器を安全な場所へ移動し、可燃物に応じて延焼を防ぐ措置をとること。 ・火元への燃焼源を断ち風上から消火する。 ・消火作業の際は保護衣及び呼吸保護具等を着用して行うこと。 ・耐熱性着衣等を着用すること。 		
漏出時の措置	<p><u>人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置</u></p> <p><u>回収・中和</u></p> <p><u>環境に対する注意事項</u></p> <p><u>二次災害の防止策</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・直ちに全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 ・関係者以外の立ち入りを禁止する。 ・着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。 ・作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、眼鏡等)を着用すること。 ・乾燥砂、土、その他の不燃性の物に吸収させて回収する。大量の流出には、盛土で囲って流出を防止する。 ・漏出物は密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。 ・河川等へ排出され環境への影響を起さないよう注意する。 ・付着物、廃棄物等は関係法に基づいて処置する。 ・付近の着火源、高温体及び可燃物を速やかに取り除く。 ・排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 		

<p>取り扱い 保管上の注意</p>	<p>【取り扱い上の注意】</p> <p>【保管上の注意】</p> <p>【湿触危険物質】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・容器はその都度密栓すること。 ・換気の良い場所で取り扱うこと。 ・作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、眼鏡等)を着用すること。 ・取り扱い後は手洗いやうがい、洗眼浄等を十分に行い、また衣服に付着した場合は着替えること。 ・容器は完全密閉し、屋内貯蔵すること。 ・酸等から離して保管すること。 ・高温多湿、直射日光等を避け、風通しの良い場所に保管すること。 ・【安定性及び反応性】を参照。
<p>暴露防止装置及び 保護措置</p>	<p>【急性毒性】 (管理濃度)(許容濃度)</p> <p>【設備対策】</p> <p>【保護具】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目保護具 ・皮膚保護具 ・保護衣 ・衛生対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定されていない。 ・水酸化ナトリウム 日本産業衛生学会(2005年版) : 最大許容濃度 2mg/m³ ACGIH(2005年版) TWA : TLV-STEL 2mg/m³ ・エチレングリコール 日本産業衛生学会(1999年版) : 設定されていない ACGIH(1999年版) TWA : 天井値(aerosol) 39.4ppm ・排気設備を設置する。 ・取り扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄用の設備を設ける。 ・保護眼鏡を着用する。 ・耐食性のある保護手袋を着用する。 ・不浸透性の保護衣、状況に応じて前掛け等を着用する。 ・取り扱い後は手洗いやうがい、眼洗浄等を十分に行うこと。
<p>製品の物理及び 化学的性質 (含有成分より類推)</p>	<p>【外観等】</p> <p>【沸点】</p> <p>【蒸気圧】</p> <p>【相対蒸気密度】</p> <p>【融点】</p> <p>【比重】</p> <p>【初留点】</p> <p>【溶解性】</p> <p>【引火点】</p> <p>【発火点】</p> <p>【爆発限界】</p> <p>【揮発性】</p> <p>【可燃性】</p> <p>【自己反応性・爆発性】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳白色液体 ・150℃以上と考えられる。 ・水に極めて近い(23hPa(20℃)程度)と考えられる。 ・水に極めて近い(1.73×10⁻²(20℃)程度)と考えられる。 ・-13℃ ・1.00(20℃) ・データが得られていない。 ・水に溶解 ・引火しない。 ・発火しない。 ・(下限)無し (上限)無し ・無し ・無し ・無し
<p>安定性及び反応性</p>	<p>【安定性・反応性】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の状態では安定である。 ・アルカリ性なので亜鉛、アルミニウム、すず、鉛等の金属に対して強い腐食性を示す。また、ある種のプラスチック、ゴム、金属に被膜剤を侵す。

	<p>【避けるべき条件】</p> <p>【危険有害な分解生成物】</p> <p>【燃焼等による有害ガス発生】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化剤、強酸、有機金属、有機過酸化物との接触に注意すること。 ・データが得られていない。 ・データが得られていない。
有害性情報	<p>【急性毒性】</p> <p>【腐食性】</p> <p>【刺激性】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エチレングリコール 経口LD50 ラット : 4,700mg/kg ・水酸化ナトリウム 経口LD50 ラット : 500mg/kg ・皮膚、眼、粘膜を強く刺激し、重度の炎症や薬傷を起す。眼に入ると角膜等が激しく侵され、失明の恐れがある。 ・皮膚や眼に対しての刺激性データが報告されている。 ・エチレングリコール 眼 ラビット : 500mg/24H 弱い 皮膚 ラビット : 555mg/open 弱い ・水酸化ナトリウム 眼 ラビット : 50µg/24H Sev 皮膚 ラビット : 500mg/24H Sev ・エチレングリコールを飲み込んだ場合は感覚麻痺、頭痛、意識喪失、嘔吐、呼吸不全、心不全を起す恐れがある。皮膚に触れた場合、刺激作用は極めて弱い長時間又は反復して接触すると炎症を起す恐れがある。眼に入った場合、弱い刺激性がある。 ・水酸化ナトリウムのミストを吸入すると、呼吸器官に損傷を与え、肺水腫を起すことがある。接種すれば口内、食道、胃等の粘膜が侵され腹痛、灼熱感、虚脱等の症状を引き起こし、死に至ることがある。
環境影響情報	<p>水生環境急性有害性魚類</p> <p>【分解性】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水酸化ナトリウム 甲殻類(ネコゼミジンコ属) LC50 40.4mg/L/48h 水生生物に毒性(区分3) ・エチレングリコール 金魚 LC50 5,000mg/L 以上/24h ・「化審法」の既存化学物質の点検結果では「分解性良好」に分類されている。生分解性は良好である。
廃棄上の注意		<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物は産業廃棄物に該当するため廃棄物処理基準に従い、業者に委託する場合、運搬は産業廃棄物収集運搬業者に、処分は産業廃棄物処分業者に委託すること。 ・容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面排水溝へそのまま流さない。 ・廃水処理、焼却等により発生した廃棄物についても廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、処理を委託すること。

<p>輸送上の注意</p>	<p>【共通事項】</p> <p>【陸上輸送】</p> <p>【海上輸送】</p> <p>【航空輸送】</p> <p>【国連番号】</p> <p>【指針番号】</p> <p>【IMDG】</p> <p>【Packing group】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取り扱い及び保管上の注意の項の一般的注意に従うこと。 ・漏洩注意、容器損傷回避。 ・運搬に際しては、容器に漏れの無いことを確かめ、転倒、落下損傷が無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。 ・重量物を上積みしない。 ・非危険物につき混載可。 ・非危険物につき混載可。 ・非危険物につき混載可。 ・該当しない。 ・該当しない。 ・該当しない。 ・該当しない。
<p>適用法令</p>	<p>【消防法】</p> <p>【労働安全衛生法】</p> <p>【毒劇物取締法】</p> <p>【船舶安全法】</p> <p>【航空法】</p> <p>【PRTR法】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・非該当 ・名称などを通知すべき有害物 エチレングリコール(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) 水酸化ナトリウム(政令番号 第319号) ・該当しない。 ・該当しない。 ・該当しない。 ・エチレングリコール 5.20% 第一種 43
<p>その他</p>	<p>【引用文献】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料物質データベース(日本塗料工業会編集) ・溶剤ポケットブック ・化学物質の危険・有害便覧(中央労働災害防止協会編) ・JCIAデータベース ・安全衛生情報センターデータベース ・(財)化学物質評価研究機構データベース ・ICSC (1999) ・原料メーカーMSDS

【注意】

この製品安全データシートは、安全な使用と取り扱いをして頂く為に信頼し得ると考えられる資料、ならびに測定等に基づき、一般的な取り扱い等を前提として作成したものです。

記載している注意事項は人、環境、安全、健康等全ての面への影響を網羅するものではありません。

また、製品について如何なる保証をするものではなく、使用におかれましては関係法令に従い、この製品安全データシートを参考にご使用者各位の責任において安全な使用条件を設定の上ご使用下さいますようお願い致します。